

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500521		
法人名	有限会社 暮らしの里		
事業所名	グループホーム暮らしの里		
所在地	千葉県千葉市緑区大膳野町4-141		
自己評価作成日	平成24年1月19日	評価結果市町村受理日	平成24年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	平成24年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ★家庭的で穏やかな日々を送ることが出来る、環境づくりに努めています。
- ★その人の持っている現状維持の、保持に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は入居者も職員も家族であり、生活の場としてのホームで、互いを尊重しあう関係を作り上げることに努めており、入居者家族から信頼されていることが伺える。ホームのオーナーが医師であり、また管理者は看護現場の経験が豊富な医療に強いホームということが入居者や家族の安心につながっている。利用者本位のケアの実践に努めており、最後までホームで過ごせるよう支援している。食事を大切にしており、入居者の好みを取り入れて1週間分の献立を立て、入居者は買い出しや準備、片づけ等できることを一緒に行っている。

tutome

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は全職員が理解勤務に取り組んでいます。	管理者は行動で理念の意義を示している。入居者も職員も家族であり、生活の場としてのホームで、互いを尊重しあう関係を作り上げることに努めており、入居者家族から信頼されていることが伺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時での地域の人との言葉かけやゴミ出しや回覧板等の用事はなるべく入居者を交え交流出来るように努めています。	敬老会等の行事への参加や散歩時の挨拶などで顔見知りの関係を構築している。誤報で消防車がサイレンを鳴らして来た時には、近隣住民が消火活動に協力しようとホームに駆けつけてくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	内部研修にて全職員が認知症について学ぶ場を設け理解し支援できるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は実施しており良い意見等があれば日々の中で取り入れていくよう努めています。	年3回程度を実施し、ホームの状況説明と意見交換を行っている。行事の日に合わせるなど、入居者家族や地域の人に参加しやすい日程に開催している。会議で出た意見や提案は、実現可能なものはすぐに反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	民生委員さんや地域包括支援センターの方とは日頃より関係をつくりいつでも協力していただけるような関係であると思っています。	市町村とは連絡を密にとっており、信頼関係が築けていると思われる。市町村、地域包括支援センターからはさまざまな情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠においては完全には確立されていないが希望時や時間を見て外へ行く機会を設けています。その他の身体拘束については行っていません。	外部研修や内部研修によって知識と実践がつながり職員は身体拘束の意義を正しく理解していることが伺える。管理者を中心に「その場で不適切な言動を指摘し合う」関係を構築し、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当グループホームにおいて虐待はないと思っていますが日々の中での職員の言葉使い等気がついた時にはその場でその方へ直接注意をしています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人、家族に相談を受けた場合は必要な限り協力、支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に家族、本人に当ホームを見学していただいています。入所時には十分な説明を行った上で入所契約を結んでおります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には事務所等にて近況報告をさせてもらっています。いつでもご意見等も言っていただけるような関係は出来ていると思っています。又職員も何かあった時にはすぐに報告するように指導しています。	管理者の知識と経験に基づいたホームの運営方針に入居者、家族等が理解を示し「お互いに遠慮しない家族のような関係」ができています。家族とは直接会うことを大切に、意思疎通を図り、意見などの反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時に職員からの意見の場を設けています。その他でもいつでも何かあった時には報告するように指導しています。	定期的なミーティングや随時の話し合いなど、率直に話し合える関係を大切にしており、意見や提案をホーム運営に活かしている。職員の定着率が良く入居者と馴染みの関係を着実に作り上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が気持ちよく勤務できるように各個人が持ち味を生かして勤務できるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎朝ミーティング、月1回ミーティング実施し質問意見はその場で気軽に相談話し合いをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会への参加時、同業、他社と情報意見交換を行っています。又定期的に3施設代表者にて意見交換や情報交換をし質の向上に努めるようにしています。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当ホームを良く見ていただきお試し入所で実感していただくと共に入居者や家族の方とも良く話し合っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には当ホームを必ず見学していただいてその時点で不安や要望を聞きお試し入所、本入所へとつなげています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームの支援が適切か否かを良く見極め否の場合には他のサービス利用を含めて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩でもあり尊重する気持ちを念頭において仕事に携わっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方がいらしたときには事務所にて近況報告をしています。又希望があれば出来る限り受け入れるよう話し合いをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前入居者と関係のあった方が面会にきて下さったり遠方の方からは電話が来たりしています。希望時には電話を自由にかけていただき関係が途切れないように努めています。	できるだけ、これまでの関係性が途切れないように支援している。思い出話などで馴染みの場所や人を思い出してもらったり、入居者の希望や要望が出ればそれを叶えるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの入居者は日々フロアにて過ごすことが多く孤立する方はいません。なるべく職員が関わる時間を持ち入居者との交流の場を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要事項は報告し相談時には積極的に対応するように心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時に本人の意向を聞いたり現状の状態を維持していけるようミーティング時に話し合いをしています。	職員は、入居者と過ごす時間を大切にしており、思いを汲み取ることや、信頼関係の構築に繋げている。毎日記録しているミーティングノートで入居者の思いや意向を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は個々に違うが出来るだけその方にあった生活が維持出来るよう支援しています。本人や、家族の方にも話を聞いたりしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者のペースを大切にしながらその方にあった方法で現状維持が出来るよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者へのきずきや意見等その方にあった方法を見つけプランにつなげるようミーティング時に話し合いをしています。	毎月行われるミーティングは、全職員が参加できる時間帯に行われており、その時に個別の介護計画が検討され、本人の意向や家族の意見も反映して作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を生活記録に残すよう申し伝えています。又ケアプランをいつでも見られるように情報の共有化に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族訪問時には事務所等にて近況報告し家族の相談等に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々が月2度訪問して皆さんを楽しませて下さっています。散歩時に出会った近所の方との交流も大切に感じております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が協力して下さるのでほとんど他科受診される方はいませんが希望があれば専門の病院へ行っていただくこともあります。	協力病院の主治医が週1回往診しており、急変時の対応も敏速に行われている。専門医の受診が必要な入居者は家族の同行で受診している。管理者が看護師であり、きめ細かい受診支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師で主治医が週2回着て下さるので入居者の心身状態についてはすべて把握していただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族希望時には入院して頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医が専門医であり具合が悪化したとき等に家族と話し合い主治医にも報告し協力を得ています。	契約時に本人、家族と話し合い記録に残している。終末期になった時に再度確認し、主治医、職員と共に必要な支援をしている。職員は看護師である管理者から看取りについて学び、不安を解消している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時には急変時の対応や連絡方法を申し伝えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災通報装置の使用方法や消火器、スプリンクラー等設備の確認等定期的に消防署の方に来て頂き指導してもらっています。	消防署指導のもと、年2回防災訓練を行っている。スプリンクラーの他警報器、避難用滑り台が設置され、滑り台利用の訓練を実施している。近隣の協力体制が築かれており、職員緊急連絡網もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩でもある事をいつも念頭において、その人その人に合ったわかり易い言葉で接しています。	研修が実施されており、トイレ誘導時の声かけや、入浴介助時の対応など、場面ごとにプライバシーを損ねない支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々関わっている中でその方の希望や困っている事を聞き対応している。その方に合った分かり 易い方法で行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事においても入居者優先にする事をいつも念頭において決して自分達のペースで動く事のないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時にはその方が望む美容室や床屋にお連れしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や、週1回の買出しには入居者と一緒に買い物へ行き、出来るだけ好み等を聞きメニューに取り入れています。盛り付けや味噌汁作り等できる方にはスタッフと一緒に手伝っていただいています。	食事を大切にしており、好みを取り入れ1週間分の献立を立て、入居者は買い出しや準備、片づけ等できることを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表にて、栄養バランス量の確認をしています。食事形態もその方に合ったものを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの実施とその方によっては磨き残しがないようスタッフが最後に確認手助けする事もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人一人に合わせて出来る限りトイレでの排泄が出来るように誘導を心掛けています。	入居者全員の排泄パターンを職員間で共有しており、重度化している入居者以外は、日中は全員トイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日2回ラジオ体操・リハビリ体操に実施、散歩等へ行き出来るだけ体を動かすような配慮をしている。食事形態はその方に合わせた調理方法を工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者のペースに合わせてながら無理なくゆっくり入浴出来るよう入浴時間は十分に確保しています。その時の本人の状態に応じて無理のないよう柔軟な対応を心がけています。	一人ひとりの状況に合わせて、湯温など希望にそって対応している。季節によってゆず湯など、お風呂が楽しくなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活ペースに合わせてながら無理なく過して頂いています。冷暖房の調節や寝具の調達も行い、快適に過ごしてもらえるよう希望を聞き入れるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬担当者は服薬する際入居者の名前を読み入居者の前で再度名前の確認をし必ず服薬確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の残存能力を最大限に生かせるように日々の関わりの中で方法を見つけ話し合い実行しています。家族の方の希望も聞き入れ現状維持の保持に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の方にも協力、了解を得ながら外出に連れて行っています。	普段からホーム周辺や近くの公園を散歩したりして、近隣の人との交流がある。2か月に1回は外出に出かけたり、個別の希望に合わせて買物に出ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方においては本人に預け買い物等も職員同行のもと行っていただいています。金銭管理の困難な方は家族からお子つかいを預かり職員が管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には職員付き添いにて自由に電話をしていただいています。手紙のやりとりを楽しみにされている方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんに満足していただいていると思っています。日頃より明るい家庭的な雰囲気づくりに努めています。	広くゆったりとしたリビングには、畳のスペースがあり炬燵が置かれている。炬燵に入る人、ソファで寛ぐ人など、思い思いに過ごしている。玄関、リビングに活けられた花やお雛様から季節が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は入居者皆さんがフロアにて過ごされている事が多く冬場には畳のスペースにこたつを置き家庭にいるような感覚で過ごせるよう環境づくりに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前自宅で使用していた馴染みのあるものを持ってきていただいています。カーテンは防災用をお願いしています。	入居前から使用していた椅子、筆筒や鏡台、家族の写真など、大切にしていた物が持ち込まれ、落ち着いて過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方に合った方法で自立支援に努めています。		